

気持ちを歌で伝えよう～スマホを使って1コーラス作りにチャレンジ～

開催日：2023年9月10日、23日、10月5日、22日、11月5日
@アクトシティ浜松研修交流センター

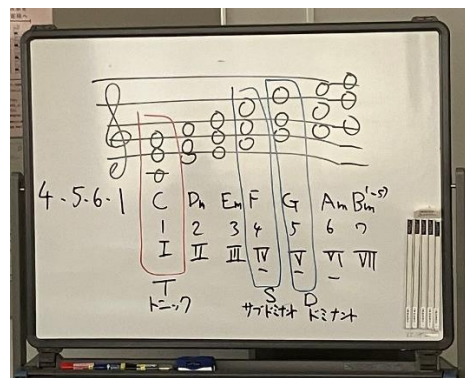
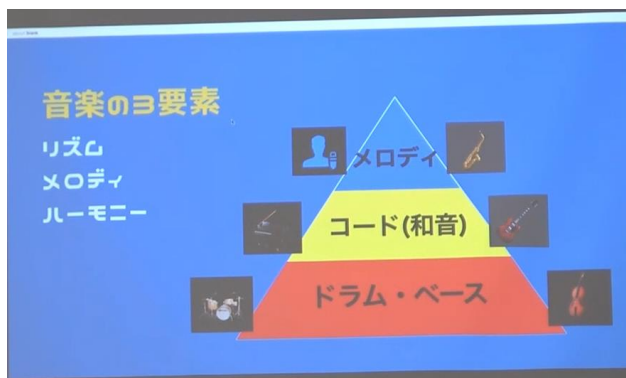
スマホやタブレットを使って1コーラスの歌と曲を作るワークショップを開催しました。全5回のワークショップを通して、iOSアプリ GarageBand（ガレージバンド）の使い方から曲のアレンジの方法を学び、ショート動画を作って発表するまでのワークショップです。ゼロから曲を作っていくので、自宅での制作も必要になる盛りだくさんのワークショップです。

講師のジョン先生は、作曲家として、石原貴洋映画監督の音楽を数多く手掛け、『レッドリスト』『大阪少女』『大阪闇金』などの作品に音楽を提供しています。

1回目

まずは自己紹介から始まりました。ボーカロイド（ボカロ）の音楽を普段から聴いている参加者が多く、お互いに共通の話題があり、すぐに打ち解けている様子でした。

講座では最初に、音楽が三要素（メロディ、ハーモニー、リズム）からできていることを学びました。サンプルの楽曲を聞きながら各要素を確認しました。ドレミファソラシドなどの音の並びをスケールと言い、明るい感じのスケールはメジャースケール、暗い感じのスケールはマイナースケールとなります。練習では、Cメジャースケールの構成音を使って和音（コード）を作り、コードの組み合わせでハーモニーを作っていきます。



スライドやホワイトボードを使った説明の様子

ガレージバンドの画面の鍵盤から1音ずつ音を選んで加えることで、コードを作りました。コードの並べ方（コード進行）により曲の感じがどのようになるか決まるそうです。コード進行にはいくつか種類があり、今回は王道進行、小

室進行、ポップパンク進行、Just the Two of Us 進行（丸サ進行）が紹介されました。日本のポップミュージックにもよく使われているそうです。



メロディは言葉の発音の区切りをイメージして音を入れていきました。例えば、「こんにちは」の場合は5つ音を入れます。入れる音はトニックというスケールの基準となる音です。その後に、音の長さや高さを変えて、試しながらメロディを調整していきました。メロディを作る際に、何回か同じ並びの形で音を入れることで、印象に残る曲になるそうです。



メロディに同じ形の音の並びが出ている

メロディを作るためには歌詞が必要になります。

歌詞を作るにあたり、今回は ChatGPT（チャット GPT）を利用しました。自分の作りたい歌のイメージや気持ちやキーワードを与えると、チャット GPT は歌詞を作ってくれます。チャット GPT は、指示が細かいほど、より自分の欲しい答えを返してくれるそうです。この歌詞をそのまま使うのではなく、良さそうなフレーズを切り取って使います。ゼロから歌詞を考えるのではなく、新しい技術も活用して作る体験になりました。

ここまでに学んだことを基に、自分の曲を作っていきます。まずは8小節を作って、その8小節をコピーして24小節（イントロ、サビ、アウトロ）の曲を作っていました。曲を作る流れは次のとおりです。

- ①コード進行を作る。
- ②メロディを入れる。
- ③ドラムを入れる。ドラムはアプリに何人かドラマーが登録されているので、その中から好きな人を選びます。たたき方の激しさや音の大きさなども好みに調整できます。
- ④ベース音を入れる。ベースパートの楽器を選び、コード進行のベースとなる

ルート音をコピーして、ベースパートに貼り付けます。



歌詞を入れずに1コーラスの曲を完成させることが、次回までの宿題になりました。

コード進行は、使う楽器の種類（パート）を何種類か入れることで、曲の厚みをつけることもできるそうです。パートをコピーすることができるので、簡単に色々な楽器を試すことができます。その他にも、曲のテンポを変えるなど、いろいろと試してみながら曲の完成に近づけていきたいですね。

2回目

最初に、自宅での進み具合を確認しました。

頭の中のイメージを音にするのが難しい、データが飛んじやった、和音とメロディが合わない、不協和音になっちゃうなどの課題が見つかったようです。

講義は、アレンジのコツについての紹介から始まりました。

コツの1つ目として、楽器の奏法のうち、主要な4パターンを学びました。

①刻み、②白玉、③アルペジオ、④オブリガートの4つです。

①は和音（コード）を細かく刻むこと、②はコードを長くのばすこと、③はコードを構成音1音ずつ引くこと、④はメロディの合間に入れてメロディを引き立てる効果音です。

これらを組み合わせて、にぎやかさや元気の良さ、しっとりした雰囲気演出したり、隙間を埋めたりすることができます。

コツの2つ目は、曲に合う音を把握することです。

スケールの音を確認することと、コードの構成音を確認することにより、整理



することができます。特に Just the Two of Us 進行は、スケールにない音が使われるため、音のぶつかりに気を付ける必要があります（Cメジャースケールの場合、GシャープやBフラットなど）。

コツの3つ目は、楽器を使い分けることです。ガレージバンドの機能にあるシンセパッド、アルケミーシンセなどにより、簡単に楽器を追加することができます。



学んだコツを活かしながらメロディを修正する時間の後に、ボーカロイドの使い方の講義に移りました。

まずは、C4のドを基本に様々なメロディや歌詞の入力方法を学びました。

次に、ガレージバンドからボーカロイドへ音を移します。

ここで必要なのが、ガレージバンドで設定したテンポにボーカロイドのテンポを合わせておくことです。ガレージバンドの曲はボーカロイドとかぶらないようメロディ部分をミュートにして曲を書き出します。

最後にボーカロイドからガレージバンドへの音の移し方を学び、本日の講義は終了です。歌も入った1コーラス分のメロディを完成させることが、次回までの宿題となりました。

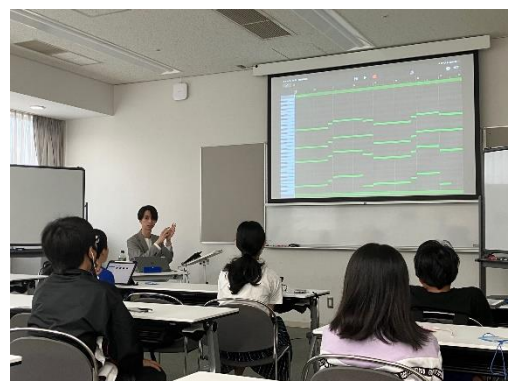
また、動画編集の準備として、動画編集アプリ「キャップカット（CapCut）」を次回までにダウンロードすることになりました。

3回目

最初に、曲のミックスのポイントについて講義がありました。

サビは一番盛り上がる部分なので、構成する音が多くなります。サビの前に効果音を加えることで、盛り上がりを分かりやすくすることができます。

また、主役のボーカルが目立つよう



に、他のパートや効果音の音量を小さくするなど調節します。
どんな場面で曲を聞かせたいかをイメージして、リバーブ（響き）のかけ具合を調節します。



習ったことを生かして、曲をミックスした後は、CapCut を使ったショート動画の紹介がありました。

たくさんある音楽動画の中から、選んで見てもらえるようにするために、動画の見せ方に工夫が必要だと、参考動画を見ながら説明がありました。例えば、作っている途中を見せる、動画の最初に気を引くように自己紹介を入れるといった工夫をしていました。

次回までの宿題は、歌を入れた1コーラス分のメロディ制作を続けることに加え、動画の編集時に必要な素材を準備することになりました。

4回目

前回に続き、ショート動画の作成の講義から始まりました。作った楽曲を多くの人に知ってもらうために、曲を紹介するような動画を作っていきます。

早速、参考動画を視聴しながら、目指す方向について説明がありました。曲紹介のショート動画は、手順を見せると伝わりやすいし、視聴する人も手順に興味があるとのこと。また、テロップも大事なので、手順ごとに入力していきます。動画の最後には曲を載せます。興味を持ってもらえるよう、短い時間で伝わるような動画を目指します。

脚本を最初に作ってから作業をすると作業が楽になります。メモ程度でよいので、整理するとよいそうです。

動画は、CapCut を使って編集していきます。

例えば、ドラム部分であれば、①GarageBand のドラム部分だけを録画。録画には iPhone/iPad の画面収録機能を使用。②「まずはドラム」など紹介するテキストを入力。③読み上げを登録。気に入った自動音声でよいが基本的には途中

で変更しないこと。④それぞれのパーツをつなぐ。
といった流れです。

1つ1つのパーツが長くなりすぎないように、調整します。



説明の後には、みんな集中して制作していました。

ワークショップの時間だけでは足りないので、次回の発表に向けて、曲も動画も完成させることが宿題となりました。

5回目

最終回となる今回は、順番にそれぞれの作った動画と曲を発表しました。不協和音ができてしまった、作った曲のデータが消えてしまったと、大変なこともあったようですが、みんな自分の気持ちを伝えられるような曲を作れて満足そうでした。また、相手に自分の作品を説明する貴重な体験にもなりました。



ワークショップを通して学んだ、曲の作り方や動画の作り方を生かして、これからも創作活動に取り組んでいけるといいですね。

参加者のみんなが作った動画と曲は、こちらでご覧いただけます。

<https://www.creative-hamamatsu.jp/projects/hcb/workshop/ws20230203/>

